

佳作

練習は自信につながる

新潟県長岡市立与板中学校

1年 小林 萌夏

20年後の自分。毎日少しずつ練習して、成長して、自信をもてる自分になっているでしょうか。「今日よりも明日はきっと良くなるよ」と、他の人を励まし、一緒に頑張ることのできる自分になっているでしょうか。

できないことをそのままにしている人、今できなくてもそのうちできるようになるはず、今できなくてもいいやと諦めている人は多いと思います。また、自分は練習してもどうせできるはずがない、と初めから諦めてしまう人もいます。

私はずっと「自分は何もできないんだな。」と自分に自信がありませんでした。でもそうではない。人は練習すれば必ず、少しかもしれないが、確実に昨日よりできるようになっています。そう思ったきっかけは、私が中学生になって、吹奏楽部に入部したことです。

吹奏楽部ではたくさんの曲を演奏しますが、その1曲1曲のクオリティを上げるためには一人ひとりが正確な音を出さなければいけません。しかし、入部したばかりで、楽器にもまだ慣れていない私にとって、正確な音を出すことはとても難しいことでした。

そんなある日のことです。私は、部活が始まる時間より前に来て練習している先輩たちの姿を見ました。そんな先輩たちの姿を見て、私も先輩たちのようになりたい、と思いました。

またその日の部活での演奏は、前の演奏よりも確実に迫力がありました。私は、先輩たちのように演奏すれば、私にも良い演奏ができるかもしれないと、勇気をもらいました。

次の日、私は部活でできないところがあったので、楽器を家に持って帰って家で練習してみました。そうしたら部活ではできなかったところが、練習を重ねるうちに、だんだんとできるようになりました。私はこの2つの体験から、「人は練習を重ねていけば、できないことでも、少しずつできるようになるんだな」と思いました。また、「私にもできるんだな」と思い、少し自信がもてるようになりました。さらに、他の1年生も入ったばかりだけど、一人ひとりの努力のおかげで、少しずつ毎日レベルアップしていると思いました。このまま、部員全員の努力が結集すれば、きっと良い演奏ができるはず、とも思いました。

しかし、ふと思ったことがあります。もしも逆に、楽器の練習時間が少なかったら、上達できないのだろうか、ということです。吹奏楽部の中にも事情があって、私のように楽器を持って帰れないという人もいます。そういう人は、部活以外の練習時間がありません。時間がつくれない人は、できるようにはなれない、上達を諦めるしかないのでしょうか。

そうではありません。時間がつくれないのなら、時間がつくれないなりに方法があります。限られた時間に集中して練習したり、先輩のように早く来て練習したり、部活後に少し残って練習したりするなど、自分で時間をつくって自分のペースでやることもできます。

これは、吹奏楽部の人だけでなく、誰にでもいえることです。例えば、勉強が苦手な人はできるようになるまで勉強したり、運動が苦手な人はできるようになるまで頑張ったり、と努力を継続すれば、その分できるようになるはずです。

だから、もしも、「私には無理」とすぐに諦めてしまう人がいたら、「もしかしたら自分もできるかもしれない」と思って、今日よりも明日は少し成長しているかもしれない、と自分を信じて頑張ってみてほしいです。

実は、私は「自分はできることが少ないから」と自信がもてませんでした。おそらく私以外にも、自分にあまり自信がないという人はたくさんいると思います。そんな人こそ、自分が自信のないことを練習してみてほしいです。また、自分は練習してもできないからと落ち込むのではなく、練習は必ず結果になると思って練習してほしいです。

私は中学生になって吹奏楽部に入り、練習することの大切さを改めて知ることができました。吹奏楽部はまもなく3年生が引退し、私たち1年生は2年生と力を合わせて、活動を盛り上げていくことになります。私は、自分の楽器、パートの音に責任と自信をもって演奏できるように、さらに練習を重ねていきたいと思います。それから、練習の大切さをいろんな人に知ってもらって、私のように自信がもてない人がいたら、練習のもつ力、大切さを伝え、その人を励ましたいです。そして、自信がもてない人を少しでも減らしたいと思います。

さらに、吹奏楽部に限らず、できないからと諦めずに練習すること続けていきます。昨日より今日、今日より明日と成長する自分自身の姿を見るために。